

て、発来の早くなるもの、経血量の増加するもの、持続日数の延長、障害の増強するものなどを10～20%内外に認め、ことに発来 of 早くなることは年代の進むにつれ著明となり、4年以上群では25%に認められる。

72. 兵庫県スポーツ医事相談所の 検診成績

兵庫県スポーツ医事相談所

佐藤 弘 松本秀俊
山下辰雄 深山 杲

兵庫県教育委員会では昭和30年よりスポーツ医事相談所を開設し、第10回本学会に於てもその検診成績の一部を発表した

が、その後の成績を報告する。前回までは相談所を神戸市に固定して開設したのであるが、その後県内各地に移動して開設した。対象は主として高等学校生徒である。

ビタミンB欠乏症は高校生男144名中6名、女84名中9名で合計228名中15名(6.5%)にみられた。但馬地域で測定した血圧の成績は、高校生65名中)最高血圧140以上の者が14名居り、之は注目に値する。尿検査は蛋白、ウロビリノーゲン、グメリンにつき行つた。蛋白は258名中(+)6名2.3%, ウロビリノーゲン112名中(+)6名5.3%, グトリン146名中(+)1名0.6%を示した。

心電図所見は252名中洞性頻脈5名、心室性期外収縮2名、脚ブロック2名心筋障害3名、洞性不整脈4名、P異常1名、P-Q延長2名であつた。

外科関係の受診者は前回発表以後54件(男子52, 女子2)で、種目別に観ると野球22柔道、卓球共に8, バスケット6, 陸上5, ボクシング、バレーボール、ソフトボール、山岳、相撲各々1となつていた。

外傷、疾病、スポーツ障害の三項目にまとめてみると、外傷15, 外科的疾患15, スポーツ障害24となつている。又スポーツ種目によつて発生する故障の種類、部位にも特色が見られることは統計的事実が示しているところであるが、特に指摘したいことは筋硬変症の多いことや、その他のことから見て、スポーツ運動後の整理運動の正しい指導には特に留意する必要があることを痛感させられるものがある。

73. 女子学生の臨海水泳実習並に登山実習 による月経の変化について

富山大教育学部 有沢一男 田中久雄

教員養成学部は男女共学であり、男子と異なる生理現象を有する女子だけの体育コースを設けることは難かしい。校外合宿を要する体育指導に当つて女子の生理問題が障害となることがあるので、これが理解のために二年

	実習中の来潮者		実習後の来潮者	
来潮不順	93%	{ 早まつた 60% 遅れた 33%	62%	{ 早まつた 24% 遅れた 28%
出血日数	50%	{ 永く なつた 3% 短く なつた 47%	43%	{ 永く なつた 6% 短く なつた 37%
経血 量	68%	{ 多かつた 13% 少かつた 55%	43%	{ 多かつた 13% 少かつた 30%
身体困難	痛み増加 痛み減少		痛み増加 痛み減少	
頭 痛	18%	12%	16%	3%
腹 痛	25%	22%	19%	3%
腰 痛	10%	15%	11%	3%

前より女子学生についての調査を質問紙によつてはじめた。

その中から一週間の臨海水泳実習(60名)と、五日間の劔、立山登山(30名)と、この両方に参加したもの(14日間にわたるもの12名)の④来潮不順、⑤月経日数、⑥経血量、⑦随伴する身体的困難について、実習中及実習後の月経期間中の変化を集計して報告する。被調査者は主として富山大学教育学部小学校課程の女子学生102名で18才～22才である。

平常の月経状態は日本人の一般とほぼ同じであつた。

実習中の来潮者は全体の39%で、水泳と登山の両方に参加したものは67%、水泳のみは40%、登山のみは27%の来潮をみた。

実習後の調査は一回目の月経について行つた。変化のあつた割合は次の表の通りである。

来潮不順については、試験のときに20%、旅行のときに45%の変動のあることを報告しているが、水泳は最も著しい。

出血日数は短くなり、経血量は少くなる傾向があるが、登山、水泳の違いは少い。

頭痛は登山中に多かつたが、高度による気圧と寒気によるのであろう。腹痛は水泳中に多かつたが、海水による冷えからであらう。

水泳実習や登山実習は月経に大きな影響を及ぼすものであり、わけても実習中に来潮するものには著しい。また登山、水泳両方共に参加したものは平常の状態が他のものよりもよいが後に残る変化は大であつた。

74. 舞踊、音楽のうけとり方と精神電流現象

お茶の水女子大学 渡辺俊男

私の用いた方法は、いわゆる電気皮膚反射(G. S. R)であつて、自律神経性反射を介して精神のうごきを分析しようとするものであり、その動因が複雑で、その応用には非常な困難を伴うものである。しかしよく条件を整

えて、用いるときは、かなり効果のある方法である。電位法を用い、温度、誘導法についてはこれまでの方法と同様である。

暗算を課したときの、G. S. R は何れも著明な変化をするが、その発現は、人により、時により種々雑多である。

行進曲のよりな、比較的簡単な、操返しのある音楽では、よく音楽の調子に一致した、G. S. R が現れ、呼吸も整ってくる。

これらのことを分析するために、次のような実験を行った。中学生と高校生に、同じ暗算を6回ずつ操返し課すと、3~4回目から G. S. R は出なくなる。これを拒否現象と考える。また、10秒毎にブザーをならすと、2~3回は反応するが、やがて反応しなくなり、しばらくして、再び反応が現れる。これを飽和の現象とみなす。このよ

うに、G. S. R の現れ方は、その時々状態によつて、非常に異なるものである。

舞踊をみたばあいの、G. S. R とその伴奏音楽のみを聴いたばあいも、両者の間に全体としての差が著明に現れ、また強張されている部分がよく一致している。

G. S. R の現れ方は、その時の心理状態によつて著しく異ってくるので、相撲のテレビ実況放送をみたときの G. S. R について調べてみた。その結果、視聴取者は勝敗にのみ反応し、前場の取組説明、勝負決定後の分解写真、コマーシャルなどには殆んど無反応であつた。一般に精神な働きの志向の方向如何によつて、G. S. R の現れかたが異なる。これは志向方によつて、感受し閾が変つてくると考えられる。